

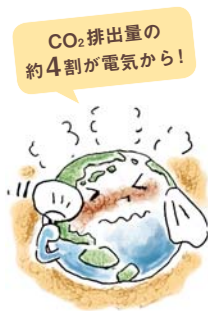
コ
ー
プ
ラ
ス
+
プ

その電気、 どうやってつくられる？ 「つくる」「つかう」再生可能エネルギー



電気は、私たちの生活になくはならないもの。でも、電気がどうやってつくられているか、考えたことはありませんか？
コープは地球の未来を守るため、太陽光発電などの再生可能エネルギーを「つくって」「つかう」ことを進めています。

電気をつくるために、
たくさんCO₂が
排出されています



コープは
再生可能エネルギーを
つくり、つかっています

自動車に乗りたりガスをつかうなど、エネルギーを得るさまざまな過程で、地球温暖化の原因とされるCO₂が排出されています。日本ではその約4割が、電気をつくるために排出されています。石炭・石油・LNG（液化天然ガス）などの化石燃料を多くつかっていることが原因です。

そこで注目が集まっているのが、発電時にCO₂を出さない「再生可能エネルギー」。太陽光など自然からつくられる電気です。

参考：国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」2018年公開版

コープデリグループは、地球温暖化を防止するための計画を作成し、2030年度のCO₂排出量を2013年度比で40%削減する目標を掲げています。この目標を達成するため、お店や宅配センターなどの施設、コープの産直農産物をつくっている産地に、太陽光発電パネルなどを設置して再生可能エネルギーを「つくる」取り組みを進めています。

また施設でつかう電気で再生可能エネルギーを「つかう」割合を高め、組合員向けの電気小売事業「コープデリでんき」でも再生可能エネルギーの割合の高い電気を供給しています。

※コープみらい・いばらきコープ・とちぎコープ・コープぐんままで供給しています

電気を「つくる」

野菜だけでなく、 電気も産直産地から

コープの産直産地として30年以上つながりのある多古町旬の味産直センター（千葉県香取郡多古町）。農産物の生産だけでなく、田植えや稲刈りなど組合員との交流も積極的に進めています。直売所の屋根に太陽光発電パネルを設置し、2017年12月から、農産物だけでなく電気も「コープデリでんき」として組合員に届けられるようになりました。



直売所「しんのみ畑」の屋根に設置された太陽光発電パネルで発電された電気が届けられます

暮らしに欠かせないエネルギーだからこそ、産直の原点「地産地消」で

「2011年の東日本大震災の際、直接的な被害はなかったものの、停電でビニールハウスの暖房が止まるなどさまざまな影響がありました。次第に原発に頼らない自然エネルギーへの関心が高まり、環境先進国のドイツを参考に、2013年から自然エネルギーを地産地消し地域農業を活性化する取り組みを始めました。私たちの精米工場など4施設に太陽光発電パネルを設置するのに参加いただいた方に、10年間自慢の産直品をお届けする

『自然エネルギー産直』です。現在、発電した電気の一部は、コープデリでんきとして皆さまにご利用いただいています。これまで産直産地として組合員さんと農産物を通じてつながってきましたが、新たな関係性を持つことができ、大変感謝しています」

農事組合法人
多古町旬の味産直センター
専務理事 鎌形芳文さん



電気を「つくる」

コープの施設を活用して発電しています

お店や宅配センター、物流施設など55カ所に太陽光発電パネルや風力発電施設を設置。発電した電気は株式会社地球クラブ*を通じて、コープの施設やご家庭に届けられます。

*コープの電力事業を担うために設立された、日本生協連の子会社です

いばらきコープ コープデリ笠間センター▶



店舗の生ゴミが電気に生まれ変わります

バイオエナジー株式会社の食品リサイクル施設（東京都大田区）では、コープデリグループの一部店舗などから出される食品残さ（生ゴミ）を利用して、発電*を行っています。

*生ゴミを分解して発生したガスで発電しています

バイオエナジー（株）食品リサイクル施設▶



電気を「つくってつかう」

発電した電気を施設内で使用し、化石燃料由来の電気を減らしています

コープの豚肉などを加工している桶川生鮮センター（埼玉県桶川市）や、宅配の冷凍品を仕分けしている小山冷凍センター（栃木県小山市）などでは、屋上に太陽光発電パネルを設置。発電した電気はセンター内で使用しています。

桶川生鮮センター▶



電気を「つかう」

コープの施設で

施設でつかう電気で再生可能エネルギーの割合を高めています

お店や宅配センター、福祉事業所、本部などで、再生可能エネルギーで発電したFIT*電気をつかう割合を高めています。

*固定価格買取制度のこと。FIT電気を調達する費用の一部は日本で電気をご利用の全ての皆さまから集めた賦課金によって補われているもので、火力発電なども含まれた全国平均CO₂排出量を持った電気として扱われます

家庭で 2つの電気メニューから選べます

2016年から電力の小売が自由化され、私たちも電気の購入先を選べるようになりました。コープみらいで2017年から、いばらきコープ・とちぎコープ・コープぐんまで2018年から始まったのが「コープデリでんき」です。コープデリでんきの「FIT電気メニュー」では、再生可能エネルギーで発電されたFIT電気を約80%使用。その中には、コープの施設や産地で発電された電気も含まれています。より家計にやさしい「ベーシック電気メニュー」でも約35%がFIT電気です。



コープながの、コープにいがたでは供給していません

チェックしてみましょう☑✎

- 電球型ランプやLEDに取り替える
- エアコンなど冷暖房の温度に気をつける（夏は28度、冬は20度が目安）
- 冷蔵庫の設定温度を「強」から「中」に変える
- 電気ポットを長時間使用しないときはプラグを抜く

※日本生協連「1日エコライフチャレンジシート」より作成

もちろん「へらす」ことも大切です

CO₂排出量をへらすためには省エネの取り組みも重要です。コープでは、お店や宅配センターなどの施設で省エネを進めているほか、組合員にも省エネを呼びかけています。

100年後も美しい地球を守るために、私たち一人ひとりが関心を持ち、家庭での電気使用量をへらすことが大切です。まずはもう一度、自分の生活をチェックしてみましょう。



コープは、事業と活動を通して「持続可能な開発目標（SDGs）」の実現に貢献します。今回の取り組みは、「目標7:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「目標13:気候変動に具体的な対策を」につながっています。